

# 安芸高田市からオリンピック選手が誕生!

## パリ五輪出場 岡崎遥海選手にインタビュー

カヌーのスラローム女子カナディアンシングル・女子カヤッククロスでパリ五輪出場を果たした、吉田町出身の岡崎遥海さん。8月に帰省されたタイミングで、お話を伺いました。

### リラックスして五輪を満喫 市民からの寄せ書きも力に!

「パリ五輪、本当にお疲れさまでした。振り返ってみていかがですか？」

ありがとうございます。今回、日本への枠の再分配で出場できることになり、2週間でピークまで持っていくのが大変でした。でも逆に、失うものは何もないだし楽しもう!と思うことができました。会場の雰囲気もすごく楽しくて、立ち上がって足を鳴らして応援したり、DJが音楽を流したりして、お祭りみたいなんです。その盛り上がりの中でスタートを切り、試合そのものを心から楽しむことができました。

「市民の皆さんから、寄せ書きが贈られました。」

すごくうれしかったです。「安芸高田の宝です」と書いてあったりして感激しました。吉田町で暮らしていたのは中学生までですが、たくさんの思い出があります。特に、「子どもふるさと探検隊」にお世話になりました。歴史を絡めて探検するようなプロジェクトに参加して、すごく楽しかった記憶があります。あと、タイヤ公園(現:多文化共生センターきりり)でよく遊んでいましたね。今、年3~4回帰ってくるのですが、郡山に走って登ったりしていますよ。美しい自然やスローな空気感など、安芸高田には、東京にないものがたくさんあります。

### 両親に支えられて 練習に励んだ子ども時代

「カヌーとの出会いは、三次市作木町のカヌー公園だそうですね。」

小学低学年のころに初心者の体験会に参加して、すごく楽しかったんです。そこから両親が毎日、可愛川や作木町まで練習に連れて行って来て、小学4年ころから本格的にレースに出るようになりました。吉田中学校では陸上部に入り、部活が終わったら川で練習...という毎日でした。陸上では持久力や瞬発力が鍛えられ、カヌーにも活かされたと思います。



岡崎 遥海 さん

1998年7月3日、安芸高田市吉田町生まれ。23年杭州アジア大会3位。パリ五輪では、女子カナディアンシングルで予選20位。女子カヤッククロスでは、第1ラウンドの9組で4位、敗者復活戦の2組で3位。

▶岡崎選手の試合情報などは  
Instagramから



### 「オリンピックを目標にしたのは?」

吉田小学校の卒業制作の自画像に「オリンピック出場」と書いているので、そのころには意識していたんだと思います。ただ、道のりは本当に厳しくて、頑張ってもなかなかはい上がれない世界。今回、パリ五輪の出場枠を獲得するための世界選手権に出るまで、いくつもの段階を踏まなくてはならなくて...。本当にハードルが高かったです。でも、それを乗り越えたことで、人間として、選手として、一皮むけたと感じています。コーチなど支えてくれた人、応援してくれた皆さんの存在が大きく、心から感謝しています。

### 「岡崎選手の強みはどんなところですか?」

テクニックです。波によって瞬間的に方向を変えたりしないといけないのですが、体格やパワーで海外の選手に及ばない分、テクニックで補っています。あと、1人でどこへでも行けるところ(笑)。武者修行でチェコに1~2か月滞在し、車を7時間も運転して移動したり、どこでもタフに生きていけます(笑)。

### 「今後の目標を教えてください。」

もちろん、4年後の五輪を目指します。それと、日本にはカヌーの人工コースがほとんどなく、練習できる場所が限られています。だからこそ練習設備を整えて、カヌー競技をもっと広めていきたいです。また、災害時や普段の水遊びにおいても、水の怖さを知るとはとても大切です。そういった意味でも、水上スポーツには大きな価値があると感じています。安芸高田の豪雨災害の際、復旧のお手伝いで戻って来ましたが、水の危険性を改めて実感しました。

### 「最後に、スポーツで一番大切なことは?」

笑顔でやって、笑顔で終わる。これが一番大切です! 安芸高田でスポーツに打ち込む子どもたちには、仲間やライバルをたくさん作って、笑顔で楽しんでもらいたいです。

☎生涯学習課 文化・スポーツ係 ☎お太助フォン 42-0054

# “先生が忙しすぎる”問題を解決! 学校の働き方改革

学校を取り巻く環境が多様化・複雑化するなか、教職員の長時間勤務の実態が明らかとなっています。子どもたちの豊かな人間性を育むためには、教職員が意欲と能力を最大限発揮し誇りを持って働くことが重要です。

市教育委員会では、教職員が健康でやりがいを持ちながら、子どもたちと向き合う時間や授業を改善する時間を確保するため、「学校の働き方改革」を進めています。

	導入・実施時期	実施内容	効果・現場の声
学校支援員の配置	従前から導入	学校の事務をサポートする事務支援員や配慮が必要な児童生徒をケアする支援員を市費で配置。学校事務支援員3人、個別最適な学び支援員13人、ICT支援員2人(2024年9月末時点)。	医療的なケアを必要とする児童へは、看護師免許を有する支援員が専門性を生かしてサポート。教員だけでは支援が困難な場合があり、専門人材を配置して対応。
部活動指導員の配置	2018年度~	吉田中の陸上部と野球部、高宮中の柔道部、甲田中のハンドボール部に配置。休日の部活指導、大会への引率を行う。	部活動指導員やスポーツ少年団指導者が担うことで、顧問である教員の休日出勤が減少。
運動会や特別活動の実施内容見直し	コロナ禍以降	狙いや必要性を検討した上で、廃止・統合・規模縮小・時間短縮など工夫する。	慣例的な取り組みや行事が、教育上本当に必要なものか見直すことができている。
校務支援システムの導入	[導入] 2021年度 [運用開始] 2022年度~	学籍情報や成績管理・健康管理など、全ての情報を統合型システムツールで管理。指導に活用。	校務情報を集約し共有することによって、効率的な校務処理につながっている。
学校用務員の配置	2023年4月~	市内全小中学校に配置し、校内清掃や草刈り、植栽剪定、花壇の管理、側溝の土あげ、小規模修繕、遊具の塗装などを行う。	教職員に時間的余裕ができ、児童生徒対応や授業準備など本来業務に専念できるようになった。
教職員を対象にしたMeet-up	2023年8月1日	「あきたかた Meet-up ~#学校現場について語ってみる~」を開催。教職員が日々感じる困り事を共有し、働き方改革のアイデアを意見交換。	教職員の業務効率化を議論し、その結果、中学校への給食支援員配置を実現。
給食支援員の配置	2024年4月~	市内全中学校に配置し、食缶・食器類の運搬と校内清掃を行う。	休憩時間が確保できたなど96%が給食業務の軽減を実感(吉田中学校教職員へのアンケート)。

☎学校教育課 学校教育指導係 ☎お太助フォン 42-5628